

【FdData 中間期末：中学歴史：室町時代】

[農村の自治：惣]

[問題](3 学期)

文中の()に適語を入れよ。

室町時代、近畿地方やその周辺では、村のおきてを(①)という会合で定め、違反者をきびしく罰することもあった。このような村の自治組織を(②)とよぶ。

[解答]① 寄合 ② 惣

[解説]

惣 という農村の自治組織

寄合

室町時代に、惣^{そう}とよばれる自治組織をもつ新しいタイプの村が生まれてきた。鎌倉時代後期から室町時代にかけて、肥料^{ひりょう}の普及^{すいしや}、水車を使ったかんがい、牛馬^{ぎゅうば}を使った耕作などによって、農業の生産性が向上したが、ここでまず注目すべきは、肥料である。肥料としては草木を焼いて灰にしたものなどを使ったが、そのための多量の草木は、村の共有地からとってきた。「とってくる」といって

も、各人が好き勝手に刈り取ってしまえば、資源(草木)はたちまちに枯^こ渴^{かつ}することになる。そこで、村の有力者が^{よりあい}寄合を開いて、例えば「1人につきこれだけ」といったようなルールを定め、「違反した場合は罰金として100文を取る」といった^{ばっそく}罰則を定めた。農業用水の管理についても同じようなことがいえる。川などから水を引くには、長い用水路が必要であり、1人で作れるものではない。村人が共同で土木作業を行って、用水路をつくり、水を共同して使った。水が豊富にあれば争いもおきないが、例えば、^ひ日照^でりで水が十分でないときは、各自の勝手にさせてしまえば、水源に一番近い者が水を独り占めすることになってしまう。寄合で、水の配分のルールを定め、違反者は厳しく罰した。さらに、惣による村人の団結を強めたのは、^{なんぼくちょう}南北朝時代の^{おうにん}戦乱や^{らん}応仁の乱などであった。この時代の軍勢は、^{ひょうろうまい}兵糧米を現地で調達するのがふつうで、農村から米などを^{りやくだつ}略奪しながら進んだ。こうした略奪から村を守るために農民自身が武装し、村のまわりに^{ほり}堀を作ったりして、対抗した。

[問題](2 学期期末)

農村で、有力な農民の指導のもとで、村ごとにつくられた自治的な組織を何というか。

[解答]惣

[問題](1 学期中間)

次の資料を読んで、以下の各問に答えよ。

一 薪は村のものを使うこととする。

一 村内の人が身元保証人にならねば、他の村の人を村内に置いてはいけない。

(1) 資料は、室町時代のある農村で定められた村のおきてである。このようなおきてを定めたり、用水路や林野の管理について相談したりするために、農村で開かれた会合を何というか。

(2) 資料のようなおきてが定められた、村ごとにつくられた自治的組織を何というか。

[解答](1) 寄合 (2) 惣

[問題](3 学期)

室町時代の様子について説明しているものを選び、記号で答えよ。

- ア 口分田が不足し、政府は人々に開墾を進めた。
- イ 貴族が荘園という私有地をもつようになった。
- ウ 二毛作が広まり、かんがいには水車を利用するなど生産が上がった。
- エ 農民たちは村ごとに惣という組織をつくったが、大名により解散させられた。

[解答]ウ

[解説]

アは奈良時代。イは奈良～平安時代。

エの「惣」は室町時代であるが、「大名により解散させられた」は誤り。

◆社会歴史の各ファイルへのリンク

<http://www.fdtype.com/dp/sr2/index.html>

◆FdData 中間期末の特徴(QandA 方式)

http://www.fdtype.com/dp/qanda_k.html

◆製品版(パソコン Word 文書：印刷・編集用)
の価格・購入方法

<http://www.fdtype.com/dp/seihin.html>

※ iPhone でリンク先が開かない場合は、
「iBooks」を開いてリンクをタップください。

【Fd 教材開発】 Mail : info2@fdtype.com